

**植物由来原料で環境配慮型かつ高性能の  
バイオエンブラ「DURABIO™(デュラビオ™)」、  
いすゞ自動車のトラック 3 車種のレーダーカバーに採用  
～自動車業界の大きな動き「CASE」化※に貢献～**

三菱ケミカル株式会社

三菱ケミカル株式会社（本社：東京都千代田区、社長：和賀 昌之、以下「当社」）のバイオエンジニアリングプラスチック「DURABIO™」が、いすゞ自動車株式会社（本社：東京都品川区、社長：片山 正則、以下「いすゞ」）の小型トラック「ELF」、中型トラック「FORWARD」、大型トラック「GIGA」の交差点警報およびブラインドスポットモニター（BSM）用レーダーカバーに採用されました。DURABIO™がトラック部品に採用されたのは初めてとなります。

**【各車種の BSM レーダーカバー位置（画像提供：いすゞ）】**



小型トラック「ELF」



中型トラック「FORWARD」



大型トラック「GIGA」

当社では現在、トラックなど商用車を含めた、自動車業界の CASE 化※により増加が見込まれる車内外のレーダーやセンサーに対応する素材として DURABIO™の用途展開を加速させております。

※）2016 年ごろから普及しつつある、「Connected（コネクテッド）」「Autonomous（自動運転）」「Shared & Services（シェアリングとサービス）」「Electric（電動化）」の頭文字をつなげた、車の進化する方向を示す言葉

DURABIO™は、再生可能な植物由来原料イソソルバドを用いたバイオエンブラで、耐衝撃性・耐候性・耐熱性などの点で一般的なエンブラよりも優れた物性を有しています。また、顔料を配合するだけでつややかで光沢のある表面を作ることができます。さらに、表面が硬くて擦り傷が付きにくい特長があるため、塗装・コーティング工程が不要となり、製造時に塗料から発生する VOC（揮発性有機化合物）を低減することができます。これらの特性を活かし、自動車の内外装意匠部品への採用が進んでいます。

いすゞは、交通事故を低減するために常に先進的な安全装置を搭載したトラックを開発しており、車両や歩行者などを検知するレーダーのカバーに電気特性にも優れた DURABIO™が採用されました。DURABIO™の塗装レスのカバーを採用することで塗料によって電波が遮へいされる懸念がなく、検知エリアや感度の質を維持することが可能です。また、外装材に求められる耐衝撃性や耐候性といった物性に加え、環境配慮型の素材である点が、いすゞの地球環境と社会の持続可能な発展に貢献するという CSR の考え方に合致することからも評価されました。

当社では、今後も DURABIO™の用途展開を通じて、環境にやさしいクルマづくりに貢献してまいります。

お問合せ先

株式会社三菱ケミカルホールディングス 広報・IR 室 TEL 03-6748-7140